

No.18	高度化		
氏名	嶋 晴菜	スポーツ健康科学研究科	M2
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
被災地支援活動は、被災者・被災地への貢献に留まらず、「活動者（ボランティアスタッフ）」にも大きな影響を与えられられる。そこで、本活動では、「活動者」が活動を通してどのような経験をしたか調査し、結果をまとめる。特に、活動によってどのような学びがあったか、現在どのように活きているか、という点について調査する。調査は、ディスカッションやワークシートを通して実施し、活動者の言葉を冊子にまとめる。最後に、被災地を訪問し、お世話になった方々へ報告として、冊子を届ける。			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
初めに、私が自分自身の活動を振り返り、「支援」について考え直した。そして、支援とは、自己中心的にならず、被支援者（＝被災者・被災地）の意図を理解し、被支援者がことごとをなす力をつけることがポイントであると理解した。私の今までの活動を振り返ると、私や仲間の自発的な活動であった反面で、活動者の「やりたい」という気持ちが先行し過ぎていた可能性が考えられた。そこで、申請時に考えていた調査を行う前に、支援の本質を学びたいと考え、支援の視点から自分自身の過去の被災地活動を振り返った。この計画変更に伴い、申請時に予定していた調査は2021年3月以降に取り組むことにしている。現在、その調査の準備として、使用するワークシートを作成している。ワークシートは、協力してもらえ活動者に送り、5月頃までに提出してもらおう計画を立てている。その後、ワークシートの分析と、協力者同士での共有を考えている。冊子の作成については、必要性を再検討する。			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
今回は、私が今まで携わった被災地支援活動を「支援」の視点から振り返り、支援について学びを深めることができた。特に、支援とは、被支援者の意図を理解し、被支援者のエンパワメントを図ることを目指すことであるということが新たな発見であった。以下に、今回取り組んだ過去の活動の振り返りを簡単にまとめる。今回振り返った活動は、私が学部生時に取り組んだ学生団体の活動である。その団体は、仮設住宅の住民同士のつながりを構築することを目的に活動していた。この目的は、被支援者（住民）に求められていたことであったと解釈でき、エンパワメントを図ることを目指した内容でもあったため、「支援」と呼べる活動であったと判断した。しかし、活動の一部は、被支援者（住民）の意図ではなく、活動者（学生）の意図のみで取り組んだものもあり、「支援」と呼べない点があったと考えられた。以上のように、今回は、支援について学び、被災地支援について考える機会となった。申請時には、被災地支援活動を行った活動者にどのような学びがあったのか調査することで、被災地支援活動の意義を検討しようと考えていたが、支援の視点を持つことができたことで、被災地支援活動の意義を丁寧に検討できる可能性が考えられる。今後は、この視点を持ったうえで、活動者の調査・分析することで、「被災地支援活動」の意義を検討したい。現在は、活動者対象の調査票となるワークシートを作成中である。また、類似した先行研究から、活動者の成果、及びボランティアのあり方について考察中である。			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
今回、「支援」について考えたことで、被災地支援では、単に「活動すれば良い」といったことではなく、活動内容が重要であり、支援先に求められていることを理解して取り組むことが大切だと感じた。そのような視点を持ち、これからは、被災地支援活動を行った人への調査を実施し、被災地支援活動や学生ボランティア活動の意義を検討したいと考えている。また、今回、被災地支援活動について考えたことで、私は、今まで関わってきた被災者・被災地との今後の関わり方を考え直すことができた。今まで、被災地支援は中途半端な気持ちではできないと理解しながらも、研究活動や就職など私の都合で被災地支援から離れることに対しても疑問があり、活動の方向性に迷っていた。今回、「支援」の本質を学びながら過去の活動を振り返ったことで、方向性に迷っていた原因は、「支援をする」か「関わらない」という2択で考えてしまっていたからだ気が付いた。今後は、「支援」として被災地に関わる場合と、「支援」以外で関わる場合とを切り分けて考え、関わり方の選択肢を増やしたい。これからは、今までの被災地支援活動を通して出会った人たちとの縁を大切に、必要に応じて「支援」をしたいと考えている。加えて、被災地支援活動者の成果の調査を実施し、「支援」の側面と併せて被災地支援活動や学生ボランティア活動の意義を明らかにしたい。また、明らかにしたことを発信し、被災地に関心を持つ人の増加や、より良い被災地支援活動・学生ボランティア活動に貢献したい。			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元 の点で記述してください。			
今回の活動を行ったことで、友人と「支援」についてディスカッションをすることができた。そこでは、支援する対象の違いによって、「支援」に対する考え方が異なるということを知り、互いに発見する機会になった。また、昨年被災地を訪問した友人には、今回まとめた文章を読んでもらった。感想として、「学生側が良かれと思って活動しても、求められていることとズレている可能性がある」と知り、対象としている場所・人と連携することの重要性が分かった。「今まで考えたことがなかったが、本当に求められるは何かを考えないといけないと思った」といった言葉をもらった。これらのことから、他者が、「支援」について考える機会を作ることができたと考えている。今後は、被災地支援活動と学生ボランティア活動の意義を調査したいと考えており、今回整理した「支援」の視点を踏まえて考察を深めたい。そして、社会に発信することで貢献したいと考えている。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。	
3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。	
研究活動と本活動は、異なる内容であるため両立に苦戦していたが、それぞれ相互に作用するものであると気づくことができた。様々な視点を得ながら、それぞれの現象について考えることで、学びが深まる感じた。また、大学院入学後から今までの2年間は、「研究しなければならない」「何か活動をしなければならない」といった感情になることも多々あったが、今回、「この視点から深く考えたい！」と内発的動機が芽生える経験をし、ワクワクしながら取り組むことの楽しさや、楽しむことでクオリティが向上する経験をした。今後、被災地支援活動や研究活動、他の活動において、同じように「やらないといけない」と精神的な負担を感じることがあるかもしれないが、その時には、目の前のことだけに焦点を当てるのではなく、他の活動の視点を取り入れたり、関連付けたりすることで、前進すると同時に、学びが深まると考える。	
3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？	
上記の通り、研究活動を進める中で、今回の取り組みに生きる視点を発見できた。具体的には、「支援」という概念との出会いである。私は、研究で、介護予防に取り組む住民グループに着目しており、そのグループの支援について考えるために、支援に関する書籍を読んだ。その際、支援の概念には、被支援者の意図を理解し、被支援者のエンパワメントを図ることが含まれていることを知り、私が今まで被災地で取り組んでいた活動は、支援と呼べるのか疑問を持った。そこで、本活動で当初予定していた調査を行う前に、支援という視点から過去の被災地活動を振り返りたいと考えることができた。また、研究活動を通して、頭で考えるより、文章化することによって学びが深まると感じてきたため、今回の活動でも文章化することにチャレンジした。このように、本活動と研究活動を相互に結び付けて取り組むことができたと考えている。	
4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○） また、併せて評価の理由も書いてください。 評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】	
① 目標の達成度	3
<理由> 申請時に予定していた取り組みは、現在までにできなかったが、今後取り組めるように検討している。今までになかった視点を持つことができたことで、今後の取り組みをより良くする準備ができたと考え。	
② 計画の達成度	2
<理由> 当初の計画通りには進まなかったものの、軌道修正して取り組むことができた。今回の経験を踏まえ、今後は何かに取り組む時には、下準備の期間を設けて計画を立てたい。	
③ 取り組みを通じた自己成長	4
<理由> 今までなかった視点から、被災地支援について考えることができたことは、私にとって非常に重要な経験であった。今後、実施予定の活動者への調査（申請時の内容）につながると思われる。また、研究活動との関連付けができたことで、より楽しんで取り組むことができた。	
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	自分の意見を分かりやすく伝える力
② ①で記述した力について具体的に説明してください	相手に伝わるように発言する力と、客観的な視点を持って文章を書く力。
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	今まで、私は自分の目線から思ったことを話してしまい、相手に伝わっていないことに気が付き、相手に伝わる表現をしなければいけないと考えた。研究活動の経験から、的確に簡潔に発言することや、客観的に読み返して文章を修正をすることを意識するようになった。